

## 二〇二〇年度 入学試験問題

文学部A方式I日程・経営学部A方式I日程・人間環境学部A方式  
GIS(グローバル教養学部)A方式

二限国語 (60分)

## 〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。
- 四 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。
- 五 問題冊子のページを切り離さないこと。

## マークシート解答方法についての注意

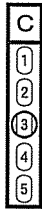
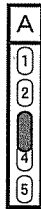
マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。

(一) 正しいマークの例



(二) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

- 二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
- 三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
- 四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

●文学部を志望する受験者は、問題(一)(二)(三)(四)に解答せよ。

●経営学部・人間環境学部・GIS(グローバル教養学部)のいずれかを志望する受験者は、問題(一)(二)(三)(五)に解答せよ。

(一) つぎの各問いに答えよ。

問一 つぎの言葉の意味として最も適切なものを、下の選択肢の中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

1 姑息 ア 言葉巧みなさま。発言が口先だけであるさま。

イ 常識はずれなさま。風変わりなさま。

ウ 場当たりのなさま。その場しのぎでそれをするさま。

エ 美辞麗句を並べてごまかそうとすること。

オ 周到なさま。計画的なさま。

2 陳腐

ア 考えが浅はかで言動も軽はずみなさま。

イ ありふれていてつまらないさま。

ウ 物品を並べて人々に見せること。

エ 性格がひねくれているさま。

オ 話のつじつまが合わないこと。

問二 つぎの四字熟語の空欄に当てはまる語として最も適切なものを、下の選択肢の中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマ  
ークせよ。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 千載 | ア | 万別 | イ | 復古 | ウ | 三絶 | エ | 暮改 | オ | 一遇 |
| 2 | 巧言 | ア | 周章 | イ | 絶命 | ウ | 右顧 | エ | 令色 | オ | 実行 |

問三 つぎの各文の傍線部のカタカナを漢字に直して解答欄に記せ。

- a 先生に小論文をテンサクしてもらった。
- b 運命に身をユダねるしかない。
- c 職場のドウリョウと花見に出かけた。

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

研究するとはどういうことか。知識生産論の視点から考えてみよう。まず、研究するということは、これまでの研究蓄積に對し、「新しい知見」something-newを加えることである。先行研究との「差異」を強調することによって次の論文は産出される。たとえば、自然科学の論文は、導入、方法、結果、考察の順で書かれるが、この形式により、過去の類似した研究との「差異」が強調されることが可能になる。つまり、方法が新しい、あるいは結果が先行研究と異なる、あるいは同じ結果から異なる考察が可能である、などのように差を強調できる。科学論文は先行研究群との「差異」を強調することによって書かれ、この差異が研究のオリジナリティとよばれるものである。さらにいうと、研究するということは、「研究予算、研究人員、研究環境」を総動員して、この先行研究との差異の特徴を生産し、それをもとに新たな「研究予算、研究人員、研究環境」を生産することである。これは、研究の社会的側面である。

これらの知識生産活動の側面に注意すると、科学者集団の単位として「ジャーナル共同体」概念を使うのが有効であることが明らかになる。ジャーナル共同体とは、専門誌の編集・投稿・査読活動を行うコミュニティのことを指す。何故、ジャーナル共同体を用いることが有効なのであろうか。

第一に、科学者の業績は主に、専門誌に印刷され、公刊(publish)されることによって評価される。そのため、ジャーナル共同体は、科学者の日々の活動にとって大事な単位となる。Latourらがその人類学的な参与観察を行った単位である「実験室(laboratory)」は確かに科学者にとって大事な集団単位である。しかし、上記で述べた先行研究との差異は、実験室での議論をもとに、publishする「論文」において明確化されてこそ、評価される。科学者の業績は、専門誌にpublishされるまでは終了された生産物として認知されない傾向がある。その意味で、実験室での議論以上に、publishされた論文というのが科学者の日々の知識生産にとって、重要なのである。第二に、科学者によって生産された知識は、信頼ある専門誌に掲載許諾(accept)されることによって、その正しさが保証される(妥当性保証)。これも、実験室という単位以上に、ジャーナル共同体

という単位が重要な理由の一つである。信頼ある専門誌に掲載許諾され、publishされることによって、その科学的知識は専門分野における「正統性」を確保する。一つの実験室での知見が、この publish を通じて他の実験室に所属するほかの多くの科学者に、信頼される知識として共有されるのである。第三に、科学者の後継者の育成は、まずこの種の専門誌に掲載許諾される論文を作成する教育をすることからはじまる(後進育成・教育)。実験室での教育はその基礎となるが、しかし、その教育の成果がどこで判断されるかといえは、やはりその分野の専門誌に掲載許諾されることなのである。第四に、科学者の次の予算獲得と地位獲得(研究予算、研究人員、研究環境等社会的側面の獲得)は、主にこのジャーナル共同体に掲載許諾された論文の記された業績リストをもとに行われる(次の社会的研究環境の基礎)。これは、上記に示した二つめの研究活動の特徴である「研究予算、研究人員、研究環境」の獲得というものが、やはりジャーナル共同体に掲載された論文と密接な関係をもつことを示している。

この四つの理由のため、ジャーナル共同体は、現代の科学者の研究の判定、蓄積、後進育成、社会資本の基盤にとって重要な役割を果たしている。これが、研究室でも学会でも学派でも学術会議でもなく、ジャーナル共同体を科学者集団の単位として採用することが、科学者の活動を記述する上で有効な理由である。

(中略)

さて、このジャーナル共同体は、レフェリーシステム(査読システム)という独特の維持機構をもつ。まずある研究者がそのジャーナルに論文を載せたいとする。研究者は論文をその雑誌の編集者(エディター)に投稿する。すると、エディターはその論文の内容を判断できる査読者(レフェリー)を選択し、その論文の掲載の妥当性を聞く。レフェリーはその論文を査読し、その結果をエディターに返却する。エディターは(複数の)レフェリーの査読結果をまとめ、投稿者に掲載可否を通知する。この査読において議論されるのは、第一に、新規性、研究の位置づけ、主張の意義、独創性が明記されているか、第二に研究プロセスは十分に記載されているか(研究プロセスは追試可能なように明記されているか、データ入手経路、分析手順は明記されているか、再現性はあるか)、第三に、論理の飛躍はないか(結果から考察に至るときに恣意的解釈をしていないか、一般化は

無理なく行われているか、論理の矛盾はないか)、第四に伝達がうまく行われているか(伝わりにくい用語はないか、言葉の定義は共有されているか)、などの点である。

このように、レフェリーシステムとは、当該ジャーナルにおける「知識の審判」機構を果たす。ある科学知識が、妥当性をもつか否か。これを判断し、保証しているのが、ジャーナル共同体の査読システムである。このシステムは、専門分化への正のフィードバック機構をもつ。

学問は何故タコツボ化し、<sup>③</sup>何故学者は狭い分野に籠るのか。そのメカニズムはどのようになっていのだろうか。上記査読システムによる研究者訓練プロセスを観察すると、この問いがよく解けるのである。

まず、研究者が一つのジャーナル共同体参入のための訓練をする。それは、レフェリーに掲載許諾(accept)される論文を書く訓練である。その訓練に成功すると、その分野の問題設定を「暗黙の前提」とするようになる。そして、後続の論文の書き方を同様に教育するようになる。その結果、訓練のない論文はますます「奇妙に」見えるようになり、問題設定が分野の常識からずれているようにみえるようになる。その分野の常識にあった書き方がされていなければ、論文は掲載拒否(reject)される。この繰り返しによって、専門分化はますます進行する。このことによって専門分野はタコツボ化される。専門内での問題意識は「洗練」され、その流儀にあつていないものはじかれるようになる。このように査読システムによって専門分化に正のフィードバックがかかっていることが観察できるのである。

(中略)

このレフェリー制度によって保たれているジャーナル共同体の知識の審判機構が、現代科学者の専門主義の源泉である。この査読制度を観察すると、専門分野が「閉じる」性格をもつことが観察されよう。知識が妥当であると判断できるのは、あくまで科学者集団(つまりジャーナル共同体)の内部にいる専門家である。このようにジャーナル共同体は内部で「閉じる」性格をもつ。それに対し、民主主義とよばれるものは、「外へ開かれている」(公開性)を要求する。この閉鎖性(disciplinary-closed)と公開性(openness)とは、専門主義と公共性とを対置したときに見えてくる大きな特徴の一つである。

さらに、このジャーナル共同体概念は、科学者が何故「公共空間」の問題に無関心に見えるのか、という問い、つまり市民の科学への不信を説明するのに役立つ。科学者の専門家としての責任感のありかと、市民が科学者に期待するものとは、違う方向をむいている。これはジャーナル共同体概念を用いるとよく理解できる。つまり、科学者の責任感の多くは、ジャーナル共同体における精確さを維持することに費やされているのである。そして、市民あるいは公共(public)にとって「不信」と見えたものが、実はジャーナル共同体に対する「X」であることが少なからずある。

たとえばある物質が人体に有害か否かの判定が科学者に求められているとしよう。科学者は、自分の属するジャーナル共同体の基準に照らし合わせて、その基準に合致するには「まだ実験データが足りない」「きちんとした結果を出すには時間がかかる」と判断する。これは科学者の責任感が、ジャーナル共同体における精確さを維持することに費やされていることの当然の結果である。ところがそれを聞いた市民の側は、「すぐに結果が欲しいのに、結果を出し惜しんでいる」「データを隠しているのでは」という反応をすることがある。ここに見られるのは、科学者の誠実⇨市民の不信、という悲しい構造である。しかし、ジャーナル共同体概念を用いれば、このことの構造は理解しやすい。市民は、科学者の誠実さが何を守るために生じているのか(ジャーナル共同体における精確さを守るために生じている)理解すべきであるし、そしてそれは専門家としての責任からそうしているのだ、ということを理解すべきであろう。また科学者の側は、市民が求めているものが、自らが誠実さと信じていたもの(ジャーナル共同体における精確さ)とは違うものであることを理解し、ジャーナル共同体への誠実さだけでは、公共の問題に対峙できないことを知る必要がある。

もう一つ、ジャーナル共同体概念を用いることの利点は、「確固たる」妥当性保証の境界が最初からあるわけではなく、専門誌の最新号の境界は、レフェリーシステムを通じて今、まさに作られつつある、ということを科学者も市民もともに共有することが可能になることである。科学者が、「まだ実験データが足りない」「きちんとした結果を出すには時間がかかる」と主張するのは、今、まさにそのような妥当性保証の境界を構築する側からいえば、当然の主張である。ところが、それに対して市民の側が「すぐに結果が欲しいのに、結果を出し惜しんでいる」「データを隠しているのでは」と反応するのは、市民の側が科学を

「確固たる結果をすぐ出せるもの」と誤解しているために生じる。科学が作り上げる境界が、常に構築の最中であり、確固たる結果が固まるまでには時間がかかる、という性質の理解を、科学者、市民が共有できれば、現在多くの場面で生じている悲しいコミュニケーションギャップが、少しは改善されるのではないだろうか。

(藤垣裕子『専門知と公共性―科学技術社会論の構築へ向けて―』より。文章を一部省略した)

【注】 \* Latour ブルノー・ラトゥール(一九四七年)。フランスの科学人類学者、科学社会学者。

問一 傍線部①「科学者集団の単位として」「ジャーナル共同体」概念を使うのが有効である」とあるが、その理由として適切なものをつぎの中から二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 科学者が新たな研究の予算を獲得するためには、査読者として「知識の審判」機構に参加する必要があるから。
- イ 科学者の業績は、専門誌に印刷され公刊されることではじめて、認知されたり評価されたりするから。
- ウ 科学者は、実験室で議論するとき、専門誌に載った論文をふまえて、各々のオリジナリティを主張するから。
- エ 科学者の知見は、専門誌に掲載されることで、正統性が担保され、科学者たちに共有される知識となるから。
- オ 科学者は、独自の方法で後継者たちを教育した後、彼らと作成した論文を、共著として専門誌に発表するから。



問二 傍線部②「恣意的」の意味として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 論理的な必然性がなく自分勝手に考えるさま。
- イ 直感に基づいて強引に物事を押し進めるさま。
- ウ 他者の意見よりも自分の政治的信条の方を優先するさま。
- エ 事実を曲げて世間や権力者におもねるさま。
- オ 自らの考えを正しいものだと確信しているさま。

問三 傍線部③「何故学者は狭い分野に籠るのか」とあるが、その理由を、四十字以上、五十字以内でまとめ、解答欄に記せ。

ただし、句読点や記号も一字と数える。

問四 傍線部④「科学者が何故「公共空間」の問題に無関心に見えるのか」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 専門主義と公共性とを対置してみると、民主主義の公開性と科学者の閉鎖性が見えてくるから。
- イ 市民が、科学者に対し、「結果を出し惜んでいる」「データを隠している」と疑いをかけるから。
- ウ 科学的な判断基準を作るためには、長い時間をかけて実験データを蓄積しなければならぬから。
- エ 科学者は、市民の期待に応えることより、ジャーナル共同体における精確さの方を重視するから。
- オ ジャーナル共同体における査読システムが、公共空間への正のフィードバック機構を阻んでいるから。

問五 空欄 X に入る語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 付度せんたく
- イ 崇拜
- ウ 過信
- エ 依存
- オ 忠誠

問六 つぎの中から本文の内容に合致するものを一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア これまでの研究とは全く異なる見解を出さなければ「研究」と認められないため、科学者たちは、それに必要な予算・人員・環境を獲得することに力を尽くしている。

イ 専門分野はタコツボ化する傾向があるので、研究者育成訓練を受けた者の論文は、一般市民から見ると、常識から外れた「奇妙な」ものになってしまっている。

ウ 「科学者は確固たる結果をすぐに出せるものだ」と市民は誤解しがちだが、実際には、最新の科学的知見が妥当であるか否かは、常に検討されている最中である。

エ 科学者たちは、もともと実験室に所属していたが、レフェリーシステムが「知識の審判」機構を持ったことで、ジャーナル共同体に所属して研究を進めるようになった。

オ 専門誌の査読者は、テーマの獨創性、実験の追試可能性、論文の論理性などを審査するのに多くの時間を費やしており、市民が求める「公開性」に即応できずにいる。

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

\* 白河院の御時、天下に殺生を禁制せられたりければ、国土に魚鳥のたくひ、絶えにけり。そのころ、貧しき僧の、老いたる母を持ちたるあり。その母、魚なければ、ものを食はざりけり。たまたま求め得たる食物も食はずして、<sup>B</sup>やや日数を経るまゝに、<sup>I</sup>老いの力、いよいよ弱りて、今はたのむかたなく見えけり。僧かなしみて、尋ね求むれども、<sup>①</sup>えがたし。思ひあまりて、<sup>②</sup>つやつや魚とる術も知らねども、みづから桂川の辺にのぞみて、衣にたまたますきして、魚をうかがひて、小さきはやを一つ二つとりて、持ちたりけり。

禁制の重きころなれば、官人、これを搦め取りて、院の御所へ<sup>C</sup>ゐて参りぬ。<sup>1</sup>まづ子細を問はる。「殺生の禁断、世にもるるところなし。いかでかその由を知らざらむ。いはむや法師の形として、その衣を着ながら、この

X

をなすこと、

ひとかたならぬ答、のがるるところなし」と仰せ含めらるるに、僧、涙を流して申すやう、「天下にこの禁制重きこと、みな承知するところなり。この Y なくとも、法師の身にて、この<sup>ふるまひ</sup>振舞あるべからず。ただし、われ、老いたる母を持ちて候ふが、ただわれ一人のほか、頼みたる人なし。<sup>③</sup>よはひたけ、身衰へて、朝夕の食たやすからず。われ、また貧家にして

Z

なければ、<sup>II</sup>心のごとくにとぶらふにあたはず。なかにも魚なければ、ものを食はず。この一天の制によつて、魚鳥のたくひなきあひだ、身の力、すでに弱りたり。これを助けむがために、心のおきどころなきままに、いまだ魚取る術も知らねども、思ひのあまりに、河のはたにのぞめり。罪を行はるること、案のうち<sup>④</sup>に侍り。遁るべからず」と申す。

「ただし、このところの魚、今は放つとも生きがたし。身のいとまを許りがたくは、これを母のもとへ遣はされて、いま一度、あざやかなる味をすすめて、心安くうけ給ふを聞きて、いかにまかりならむ」と申す。

これを聞く人、涙を流す。院、聞こしめして、<sup>3</sup>養老の志浅からぬをあはれみ感ぜさせ給ひて、さまざまのものども、馬車に積み、たまはせて、許されにけり。<sup>④</sup>ともしきことあらば、なほ申すべき由をぞ、仰せ含められける。

【注】

\* 白河院

白河上皇。

\* 桂川

京都の嵐山の辺りを流れる川。

\* たまただすき

「たま(玉)」は接頭語で、「たすき(襷)」の美称。

\* はや

コイ科の淡水魚。

\* 搦め取りて

捕まえて。

\* 一天の制

天下に出された命令。

問一 波線部A「たぐひ」B「やや」C「ゐ」の品詞として適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

同じ記号をくり返し選んでもかまわない。

|   |    |   |     |   |     |   |      |   |     |
|---|----|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|
| ア | 名詞 | イ | 動詞  | ウ | 形容詞 | エ | 形容動詞 | オ | 連体詞 |
| カ | 副詞 | キ | 接続詞 | ク | 感動詞 | ケ | 助詞   | コ | 助動詞 |

問二 点線部I「たのむかたなく見えけり」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 命も助かりそうもなく見えるほどであった

イ 助けてくれる人は自分以外にはいなかった

ウ 母を助けられる人は誰一人存在しなかった

エ 母の世話を任せてもよい人が現れなかった

オ 魚を提供してくれる人もないように思われた

問三 傍線部①「思ひあまりて」②「つやつや」③「よはひたけ」④「ともしき」の本文中の意味として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

① 「思ひあまりて」

ア いよいよ覚悟を決めて

イ ほかに考えようがなくなつて

ウ ますます感動して

エ すべて嫌になつて

オ さらに頑張る気持ちになつて

② 「つやつや」

ア あたかも

イ 意外にも

ウ いつまでも

エ おおよそ

オ 少しも

③ 「よはひたけ」

ア 高齢になり

イ 病弱になり

ウ 罪人になり

エ 孤独になり

オ 貧乏になり

④ 「ともしき」

ア 嬉しい

イ 気に入らない

ウ 心苦しい

エ 足りない

オ 喜ばしい

問四 二重傍線部1「ぬ」2「ぬ」3「ぬ」の活用形として適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。  
同じ記号をくり返し選んでもかまわない。

ア 未然形

イ 連用形

ウ 終止形

エ 連体形

オ 已然形

カ 命令形

問五

空欄

X

Y

Z

に入る漢字一字として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解

答欄の記号をマークせよ。同じ記号をくり返し選んでもかまわない。

ア 孝

イ 財

ウ 制

エ 犯

オ 病

カ 老

問六 点線部Ⅱ「心のごとくとどらふにあたはず」を二十字以上、三十字以内で現代語訳し、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問七 『十訓抄』と同じジャンルに属する作品をつぎの中から一つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 無名抄

イ 宇治拾遺物語

ウ 愚管抄

エ 徒然草

オ 太平記

●次の問題〔四〕は、文学部を志望する受験者のみ解答せよ。

〔四〕 つぎの文章の作者は、宋の蘇軾（一〇三六—一一〇一年）である。前半は、蘇軾が洛陽を訪れた時に人から聞いた話を記し、後半は、蘇軾が湖州にいた時の体験を記している。これを読んで、後の問いに答えよ（設問の都合で返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

昔年過洛、見李公東之。言一真宗既東封還、訪

天下隱者得杞人楊朴能為詩。召對自言、不

能上問、『臨行有人作詩送卿否』朴曰、『無有唯

臣妻有<sub>ニ</sub>一首云、

且<sub>ニ</sub>休<sub>三</sub>落<sub>三</sub>魄<sub>三</sub>耽<sub>ニ</sub>盃<sub>ニ</sub>酒<sub>ニ</sub>

更<sub>ニ</sub>莫<sub>ニ</sub>猖<sub>ニ</sub>狂<sub>ニ</sub>愛<sub>レ</sub>詠<sub>レ</sub>詩<sub>ヲ</sub>

今日捉<sub>ヘ</sub>將<sub>モ</sub>官<sub>ヲ</sub>裏<sub>ニ</sub>去<sub>ル</sub>

這＊しや回くわい斷ニ送セラレント老頭皮ヲ』

上大イニ笑ヒ放ゆるシテ還ラシムト山ニ』

余ニ在リ湖＊州ニ坐＊シ作レ詩ヲ追とらヘラレテ赴ク詔＊獄ニ妻子送レ余ヲ出デテ門ヲ

皆ス哭ス無ニ以テ語ル之ニ顧ミテ謂ヒテ妻ニ曰ク「獨リ不レ能ハ如ク楊＊処士」

妻ノ作リテ一ヲ詩ヲ送ルコト我ヲ乎ヲ。妻子不レ覺エ失ス笑ス。余乃出デタリ。

(『東坡志林』より)

【注】

\*過洛

洛陽にゆく。

\*李公東之

李東之。宋の人。

\*真宗

宋の第三代皇帝(九九七〜一〇二二年在位)。

\*東封

東方の泰山で天地を祭る封禪の儀式を行なうことをいう。

\*杞

現在の河南省杞県。

\*楊朴

宋の人。

\*落魄

おちぶれること。

\*官裏

役所。



\* 這回断送老頭皮　　こんどこそは頭の皮をめくられてしまおうでしょう、の意。

\* 湖州　　現在の浙江省湖州市。

\* 坐　　罪をおかす。

\* 詔獄　　牢獄。

\* 楊処士　　楊朴をさす。処士は官吏として仕えない人をいう。

問一 波線部 a「見」b「自」の読み方として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

a 「見」

ア あらはる

イ まみゆ

ウ しめす

エ みる

オ さとる

b 「自」

ア より

イ おのづから

ウ ここに

エ みづから

オ ほしいままに

問二 傍線部①「臨行有人作詩送卿否」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア おまえが発する際におまえへの送別の詩を作ったものはいなかったか。

イ 私が封禅の儀式を行なったことを讃えた詩を詠んだものはいなかったか。

ウ 旅立つに当たっておまえは誰かに別れの詩を作ってあげてこなかったか。

エ 私が巡幸を行なった時の壮麗な様子を詩に詠んだものはいなかったか。

オ 天子として世を治める時に役立つ教えを詠み込んだ詩はないものだろうか。

問三 文中に引用されている詩の詩形は何か。漢字四字で解答欄に記せ。

問四 文中に引用されている詩において、押韻している字はどれか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 酒・詩                      イ 酒・去                      ウ 酒・皮                      エ 詩・去                      オ 詩・皮                      カ 去・皮

問五 傍線部②「更莫猖狂愛詠詩」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 詩作にばかりふけていると人生を誤りますよ。

イ 思ったことをそのまま詩に詠み込んでもいけません。

ウ 取り付かれたように詩作に夢中になるのもやめなさい。

エ 詩人きどりで羽目を外して勝手にふるまうのは駄目ですよ。

オ 詩を愛するのも高士のたしなみではありませんか。

問六 傍線部③「独不能如楊妃土妻作一詩送我乎」とあるが、蘇軾はなぜこのようなことを妻に言ったのか。三十字以上、四十字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

● つぎの問題〔五〕は、経営学部・人間環境学部・GIS（グローバル教養学部）のいずれかを志望する受験者のみ解答せよ。

〔五〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

① 消費社会化の進展を背景に語られてきた若者論と対比したときに一九九〇年代以降の若者論<sup>1</sup>においてきわだつのは強い否定的なまなざしである。もちろん、<sup>\*</sup>新人類にせよ、オタクにせよ、一九八〇年代の若者論にあつても否定的な語り口はつねに存在してきた。だが例えば小此木啓吾がそうであつたように、若者に独特の生活様式・意識・価値観などは、消費社会への適応としてある程度までは肯定的にもみられてきた。一九九〇年代に小谷敏が編んだ『若者論を読む』において一つの主題となつたのは都市の一部の若者に過ぎない「新人類」をメディアが肯定的に評価しすぎているという点であつた。つまりそのような批判が若者論において主題となる程度には、若者に対する肯定的なまなざし（羨望も含めて）も広がつていたということだ。

② このような「新人類」論に対して、一九九〇年代、特にその後半以降に展開された若者論の多くは、若者を徹底的に否定的に描き出すものであつた。この否定的な描写のための枠組としてこの時期に特に重要だつたのは治安と労働である。一方において若者は治安を脅かす存在として描き出された。各種犯罪統計が逆のことを示しているにもかかわらず、少年犯罪の凶悪化・一般化・低年齢化が叫ばれた。

③ それと同時に若者は労働意欲に乏しく、勤労倫理を欠いた存在として描き出された。一九九〇年代後半から問題とされるようになったフリーター、二〇〇〇年代半ばから問題とされるようになったニート（NEET）。いずれも若者の側の心理的あるいは倫理的な問題としてとらえられ、若者への道徳的な憤激や非難を呼び起こした。各種調査によれば、フリーターにせよニートにせよ、若者の労働をめぐる問題は主として労働市場の変化の問題であることが明確であるにもかかわらずだ。

④ またこれらの描像と並走する形で若者の友人関係が希薄化しているという言い方も繰り返された。各種の調査をみるかぎ

り、若者の友人関係が満足度の高い、良好なものにかわつてきているのは明確だったのにもかかわらず、である。また希薄化論は、何をもって「希薄な」人間関係とみなすのかについて議論をしないまま、身近な具体例に依拠して批評的な語り口を展開することが多かったために、人間関係の変化について立ち入った議論をする機会を自ら閉ざしてしまったようにもみえる。希薄化論は実は一九七〇年代から語られつつづけている若者言説の定番ともいべきものであるが、その間に実際に起こっていた変化は希薄化だとか濃密だとか、深いか浅いかといった軸の立て方それ自体を無効にしてしまうようなものであった。

⑤ しかし別の角度からみれば、このような「バッシング」の語りは消費社会化とともに溶解しつつあった若者カテゴリーの輪郭を再度明確に引き直す働きを持っていた。なぜならそれらの語りは、若者自身の中に非難に値する特性をみだし、その特性によって若者を他の年齢層・世代から区別しようとしていたからだ。このような特性の発見と区別の線引きは、さまざまな実践の組織化をとまなっている。

⑥ 例えば、少年を道徳的に劣化した存在とみなす「少年犯罪凶悪化」言説は、少年法の厳罰化への動きが組織されていく中で重要な一部を占めることになる。またニート・フリーターになつてしまう原因を若者の職業意識の低さに見出す言説は、(労働市場や雇用慣行への働きかけではなく)若者の意識や生活習慣に働きかけるような諸政策(「若者自立挑戦プラン」や各種キャリア教育の推進等)へとつながつていった。

⑦ また、若者の友人関係を希薄だとみなし、その原因を若者の行動の内に見出そうとする視線は、しばしば彼らが用いる新しいメディア機器(あるいはそのための諸サービス)を仮想敵とみなしてきた。このような語り口は、例えば、学校への携帯電話持ち込みの禁止などといった「教育」に関わる諸実践を組織する際に参照されてきたものだ。

⑧ だが、これらのバッシングは、若者論が「若者論たろうとする最後の試みであったとみることもできる。バッシングを通して改めて引き直された若者カテゴリーの輪郭は、まさにそのバッシングを通して再度溶解していくのである。

⑨ 第一に、バッシングはその強さによって、対抗言説を呼び起こしてしまふ。そもそもバッシング的な語りはしばしば、社

会的諸条件の変化がもたらす語り手の側の不安を若者の上に投影し、若者を過剰に「謎」として描き出すものであった。そのかぎりでは、凶悪化する若者も、人間関係が希薄化する若者も、勤労意欲の減退した若者も、いつてみれば彼ら(大人たち)の不安が落とした影のようなものにすぎなかった。バッシングがしばしば X に終始してしまうのはそれゆえである。

⑩ 対抗言説はまさにこの点に照準する。つまり、X を離れてさまざまなデータを眺めてみるならば、若者は彼らがいかに劣化してはいない。むしろ変化したのは、社会の側であり、また若者を見る大人の視線の方である、と彼らは冷静に指摘する。例えば、強盗犯が増えたようにみえるのは、「少年犯罪凶悪化」論に後押しされた警察が検挙の仕方を変えたからであり、フリーターが増えたのは、若者自身の意識や価値観の変化というよりは、労働市場が逼迫ひっばくしたためである。あるいは友人関係が希薄化しているようにみえるのは、彼らが人間関係を取り結ぶ際の文脈が多元化したためである、と。

⑪ このような説明自体はデータに基づく妥当なものではあるのだが、若者についての議論というよりは、若者をとりまく社会的諸条件の変化について論じるものであった。その語り口が受け入れられれば受け入れられるほど、若者がどのようなものであるのか、という問いは後景に退いてしまうだろう。それは若者カテゴリーの輪郭線を引き直そうとする営みそれ自体を抑止する効果を持っていた。

⑫ 第二に、特に労働関係の諸施策が押し進められるにつれて、それは対象範囲を拡大し、若者の範囲を曖昧にしていくことになった。施策がはかばかしい効果をあげないまま、対象が年齢を重ねていったため、施策がカバーする「若者」の上限をなし崩し的にあげていかざるをえなかったからだ。子ども・若者に関する政府の大綱的な文書(『子ども・若者ビジョン』)において、若者はおおむね三〇代を含むもの(つまり三九歳まで)と定義されている。若者というカテゴリーを用いて組織された諸実践の帰結が、そのカテゴリーの運用に変化を及ぼし、その積み重ねが徐々にカテゴリーの外延を曖昧にしてきたのである。

⑬ このように二つの意味で、バッシングはそれが描き出そうとした若者の像を曖昧化させていった。二〇一〇年代の若者論

が立っているのはそのような場所である。

(浅野智彦「若者の溶解と若者論」より。文章を一部改変した)

【注】 \*新人類 一九八〇年代に、従来とは異なる感性や価値観を持った若者たちを指した呼称。

問一 傍線部「一九九〇年代以降の若者論」は若者をどのように論じたか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 一部の大都市に住む若者のうち、とくに旧世代とは大きく異なる意識・価値観・生活様式を持った者たちを取り上げて、理解できない謎の存在であると否定的に分析した。

イ 若者は治安を脅かすだけでなく、ニートやフリーターに代表されるように勤労意欲も乏しいため、政府が何らかの政策を講じなければならぬ厄介な存在だと批判した。

ウ 実態とは異なるにもかかわらず、若者が治安悪化の原因になっていると危険視しただけでなく、若者は労働意欲が低く心理的・倫理的にも問題があると非難した。

エ 希薄な友人関係しか築けないために、若者のモラルや労働意欲が低下してしまい、それが今日の治安の悪化を招いているとして、一方的にバッシングした。

オ 若者のなかでも特に大都市に住む若者を中心に論じるようになり、都市部における治安悪化や失業率上昇の責任が若者にあるかのような論を展開した。

問二 傍線部2「若者の友人関係が希薄化している」とあるが、そのように見えるのはなぜか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 新しいメディア機器や諸サービスが普及し、若者の結びつきのあり方自体が多様化したから。

イ 若者の友人関係が変化したのではなく、若者に対する社会の見方や社会状況が変わったから。

ウ 昨今の若者は、深いか浅いかといった観点だけで友人関係を捉えたりしないから。

エ ニートやフリーターとなった若者は、社会との接点を持たず、友人を作る機会自体を失ったから。

オ メディア機器に依存して人間関係を構築する若者は、対面でのコミュニケーションが苦手だから。

問三 傍線部3「若者カテゴリーの輪郭は、まさにそのバッシングを通して再度溶解していく」とあるが、それはなぜか。その説明として適切なものをつぎの中から二つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 若者バッシングの正体が、大人たちの抱える不安の裏返しでしかないということがデータによって証明されてしまったため、若者をバッシングし続けることが困難になってしまったから。

イ 若者を支援するために推し進められた諸施策の中で、若者として扱うべき年齢上限が政府によって一方的に決められたため、若者らしさを議論すること自体が意味を失ってしまったから。

ウ いくらバッシングをしても必ず対抗言説が生まれるため、若者対大人という対立図式から抜け出せず、客観的なデータに基づいて冷静に議論を継続することができなくなってしまったから。

エ 若者の特徴だと思つてバッシングすればするほど、それは若者ではなく社会が抱える問題であるという反論が起こつてしまい、徐々に若者についての議論から遠ざかってしまったから。

オ 若者を支援する諸施策がうまく機能しないまま、若者と呼べない年齢になった者を施策の対象から除外するわけにもいかず、結果的に若者扱いされる年齢が徐々に拡大してしまったから。

問四 空欄 X に入る語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 印象論      イ 一般論      ウ 懐疑論      エ 抽象論      オ 循環論

問五 本文を大きく三部に分けるとすると、どこで分けられるか。第二部、第三部のはじまりとなる段落の番号をそれぞれ解答欄にマークせよ。

問六 波線部「若者論が「若者」論たろうとする」とはどういうことか。つぎの形式にしたがつて、三十字以上、四十字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

こと。









